

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276600422		
法人名	医療法人社団 聖パウロ会		
事業所名	グループホーム今日香		
所在地	静岡県磐田市上野部1519-5		
自己評価作成日	平成 31年 1月 4日	評価結果市町村受理日	平成31年4月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人なので、24h体制で対応させて頂くことが出来るため、医療依存度の高い方への対応もさせて頂いている。1日2回往診の看護師が来て体調管理をしてくれ、医師の往診は毎週月曜日と不定期で水曜日、金曜日に来てくれている。  
また、建物が平屋なので入居者様同士のフロア間の交流もスムーズに行えており、施設内での行事の際にも医療依存度の高い方の参加もしやすい環境となっている。  
田舎なので、あまり昔と景色も変わらず車通りも少ないため、散歩するにはとても良い環境だと思う。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [okensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action\\_kouhyou\\_pref\\_search](http://okensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_pref_search)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成 31年 1月 17日		

医療法人の管理の下で医療・健康・安全面等の柔軟な適切な支援により、利用者は不安なく過ごせている。法人の理念「お互いさまの心」を基本に、管理者が考えた年間目標に沿って利用者の思いを受け止めて状況や要望に応じた介護が実施されている。職員の勉強会では疑似体験を取り入れて利用者の思いを知り身をもって適切な介護を学び、職員は生き生きと働いている。重度の方も二人対応で浴槽に浸かれる支援をしている。ホール続きの和室スペースでは畳の上に布団を敷いて重度の人も皆の傍で声が聞けて又、リクライニング椅子の方も同じテーブルで介助で食事をされて、寂しさのない家庭的な生活が送られている。各月の運営推進会議は議事録を家族に送り、日常生活の様子を詳しく伝えている。近隣の方の入居が多く知人や、友人の訪問も多く楽しく過ごされるように配慮している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時に必ず理念の説明を行っている。 また、年に1回は職員会議で確認を行っている。	「お互いさまの心」の理念を基に管理者は今年度の目標を作っている。目標に沿って各フロア毎で話し合い毎月目標を立て、翌月に評価をして更なる目標を作り実践している。利用者が常に笑顔になる事を増やして、思いを訴えてもらえるよう日々取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、草刈りや防災訓練、地区の祭りなどに参加させて頂いている。 また、ボランティアの方に来て頂き演奏会などを行う際には、地域の方にも声をかけさせて頂いている。	利用者は地元の人が増えてきて、地域の行事や散歩時などで声を掛け合っている。年2回の家族会や敬老会の時に地域に声掛けして参加があり交流している。近所から野菜や柿、メロン等差し入れがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	包括主催の家族会に参加させて頂き、自宅介護をされている方に自分達の知識や技術を提供させて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	災害についての意見が多いが、話し合った内容を職員会議で全職員に報告し、実践に繋げている。	市職員・地域包括支援センター職員・民生委員・当番制で参加の家族と利用者が参加することがあり定期に開催している。身体拘束廃止委員会など8つの委員会で話し合っていることを推進会議で報告し参加者からの意見を聞いている。議事録は自治会長と欠席の家族に送っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業者連絡会議に参加している。 また、2か月に1回の運営推進会議にも参加して頂いており、その都度話し合いが出来ている。	市介護相談員の来所が1ヶ月に1度ある。市立病院主宰の「語ろう会」や市主催の「事業所連絡会」に管理者が参加し意見交換等行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法改正があったため、今年から年に2回勉強会を行っている。 また、職員入社時には個人的に説明し把握してもらえよう努めている。	「身体拘束とは、やってはいけないこと」の勉強と、管理者が作った現在の利用者の課題に沿った具体的な内容の資料を使って、職員と利用者役を交代で疑似体験を行い、本人のすることの意味を考えることや対応について等結果を基に話し合いを行なっている。	

静岡県(グループホーム今日香)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同じ月で年に2回勉強会を行っている。 また、入社時にも身体拘束同様、個人的に説明し把握してもらえるよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1回は勉強会を行い、この制度に関する説明を行っている。現在はこの制度を利用している方はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申し込みに来て頂いた時に話し合いをさせて頂き、契約締結時にも直接会って話し合いを行っている。改定時には文章で説明し、面会時には直接説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者やご家族からご意見を頂いた場合には、申し送りや職員会議などを利用して全職員に把握してもらえるよう工夫している。	年2回の家族会や敬老会、面会時に家族から推進会議の議事録を見ての感想や意見を聞けることが増えてきている。聞いたことは記録に残し、会議で伝え職員間で共有して反映させる仕組みがある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に話しやすい環境づくりを心掛けている。職員会議では、係や委員会の担当者それぞれが全職員に伝えることで意見を出しやすいよう工夫している。	全職員は8つの委員会のどこかに所属していて、毎月委員会を開いている。職員会議で報告をし皆で話し合って各意見が反映されるようになっている。利用者のケアについての提案を苦情委員はアンケートを出し職員の意見を聞いている。職員のシフト・休日の希望は概ね叶えられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の生活環境を考え、希望によっては休みを固定にしたり、曜日で早く帰れるよう配慮したりと働きやすい職場づくりを工夫している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内の勉強会は毎月2回ずつ行っている。 法人の勉強会は年に数回行っている。 外部研修に関しては、希望者がいれば参加してもらっている。		

静岡県(グループホーム今日香)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	磐田市やGH協会、自分の住んでる地域限定の事業者連絡会議などで行われる勉強会に参加し、新しい知識や技術を身につけていけるよう努めている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来るだけ本人が安心できる空間でお話を聞けるよう工夫している。そこで得た情報は会議などで全職員に把握してもらい安心して過ごして頂ける空間づくりを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安や要望に関しては、今後施設でどのように対応していくのかを、具体例も挙げながら出来るだけ分かりやすく説明し、少しでも安心して頂けるよう工夫している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービス利用が困難で、ここに来られる方ばかりなので、他のサービス利用は考えていないご家族ばかりである。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物や掃除など、自分で出来ることはなるべく自分でやって頂くよう心掛けている。その際、なるべく1人にならないよう工夫している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	2か月に1回、写真付きのと、文章だけの2種類のお手紙を送らせて頂いている。面会時には職員から入居者さんに声をかけ、スムーズに話が出来るようお手伝いをさせて頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の方が多くなってきたので、入居者さん同士も知り合いということが増えてきている。そのため、面会者もご家族だけではなく、知り合いにも挨拶をして帰られることが多くなってきている。	以前から行っていた美容院やスーパーへ買い物など本人の希望する馴染みの場所へ出かけられるよう支援している。友人・知人の訪問に楽しく過ごしてもらえるようおやつ時間と重なれば一緒に又、居室でゆっくりしたい人にはお茶の接待をしている。	

静岡県(グループホーム今日香)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来る限りフロアにて過ごして頂けるよう心掛けている。入居者同士の会話が難しい場合には、職員が間に入って話すように気をつけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取りまでさせて頂いている為、ご本人には会うことはほとんどないが、ご家族とはお会いする機会があるため、お話をさせて頂く機会がある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人より希望がある場合には出来る限り意向に沿えるよう努めている。困難な場合でも、表情や仕草などから思いをくみ取るよう心掛けている。	職員は利用者との会話や表情からその人の思いを知るようにしている。皆のいるところより1対1になった時に本音を聞けることが多い。訴える理由を理解して状態を掴みながら対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族に伺った情報を全職員が把握できるよう、入居前情報を作成している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	フロアノートを作成し、変化があった場合には必ず記入している。そして全職員が把握できるよう申し送りや伝え、サイン名簿にチェックしてもらうようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎朝1人ずつプランの評価を行っている。変化がある場合にはその都度ご家族や多職種と相談し、そこで出た意見などをプランに反映させている。	本人の思いに沿って困っていること、どうなりたいか何をどうするかなど具体的な内容の計画は1ヶ月で評価している。半月で総合評価を行って計画書を作成している。家族には前もって意見を聞いているが、出来上がった計画書で再度説明し家族の意見を記入してもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録以外にフロアノートを作成し、細かい情報を記入している。また、介護計画書の内容に変更がありそうな場合には、メモを入れて全員が把握できるよう工夫している。		

静岡県(グループホーム今日香)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出や外泊だけでなく、施設に来てくれる美容院ではなく、馴染みの美容室へ行きたいと訴えある場合にはそこへ一緒に行くようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	医療依存度の高い方が多く、外出頻度も少ないため、ボランティアの方に来て頂き、施設内で楽しめるイベントを企画している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療法人のため、内科に関しては入居にご家族と相談し、主治医は移して頂いている。その他の病院に関してはご家族にも協力して頂きながら今まで通っていた病院へ通院されている。	毎週月曜日と第3水曜日・金曜日、火曜日の午後など往診の日が多く、24時間オンコールに対応してくれている。他科受診は家族に対応を依頼しているが、職員が行くことが多い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療法人で24h体制なので、入居者の体調に変化がある場合、連絡するとすぐ対応してくれる。また、1日2回午前と午後に来てくれる為、相談しやすい環境が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時の情報交換に関しては母体が対応してくれているため、スムーズに行えている。 入院中や退院時には病院にてご家族とメンテナンスをしっかりと行い、安心して施設に戻って頂けるよう準備している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況に変化があった場合には、施設からだけでなく医師からも説明を行い、今後の方針を一緒に決めていくよう努めている。	状態が悪化した時家族は病院で医師の説明を聞き、医師から聞いた内容を基に事業所と家族が話し合いその後の対応を決めている。本人・家族の思いを確認し医療と連携して支援を行っている。生活音を感じたり職員の声掛けの中、日中はフロアや畳のスペースにベッドや布団で過ごしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年事故対策についての勉強会や、急変時の対応についての説明を行い、全職員に把握してもらえるよう努めている。		

静岡県(グループホーム今日香)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に1回、勉強会を行っている。 また、全ての災害に対する訓練を年に数回行っている。	地震・火災の訓練には2回とも消防署が立会い、アドバイスを受けている。他、水害訓練もしている。皆が参加できる日を決め災害マニュアルを基に訓練を実施し、利用者の状態の変化から出る課題にマニュアルの見直しをしている。夜間想定訓練や突然夜間召集訓練等をしている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	地域がら、丁寧な言葉遣いではなく方言で話すことが多いが、今まで生活していた環境によって、丁寧な言葉遣いをされている方もいるため、その方に合った言葉遣いを心掛けている。	個人情報保護委員が居室の表札を外すべきかや作品にフルネームで記入してもらうのはどうかなどの意見や不適切なケアについてなどを会議で伝え、皆で話し合い家族の意見も聞いている。職員は笑顔で穏やかにその人にあっただ対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	TVや広告など目に見えるもの話題から興味を持っていただき、そこから自然に本人の思いを伝えてもらえるよう工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の予定は全く決めず、それぞれ思い思いに過ごして頂いている。入浴時間や散歩など、声掛けした時間に行って頂くだけではなく、本人の希望時間に対応することもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服や美容室など、本人が希望する馴染みの場所へ買い物に行くことができるよう工夫している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人の給食センターから届くため、硬さや味付けについて希望があればその都度伝えて調整して頂いている。	職員は利用者と同テーブルの間に入り、同じ物を食べている。安全に楽しく食事が出来るよう声掛けしながら様子を確認している。おやつと一緒に作ることもあり、多くはないが外食に出かけることがある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表にて日々の摂取量を把握し、気になるようであれば往診へ報告し対応してもらっている。食事だけでは栄養が足りない場合にはおやつ時にエンシュアゼリーなどを摂取してもらうよう工夫している。		

静岡県(グループホーム今日香)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前後に行っている方と、起床入床時の2回行っている方がいる。 月に2回訪問歯科が来てくれている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて日々の状態を把握し、排泄リズムをつかむことで、自立に向けてのケアを心掛けている。	立位・座位が可能でなくても本人の希望があり、体力のある人には2人介助でトイレでの排泄を支援している。個別のリズムや習慣を把握して自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	施設の廊下や外を散歩しながら運動している。食べ物に関しては、食物繊維の多いものを食べて頂いたり、おやつにヨーグルトなどの乳酸菌も摂ってもらえるよう工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	点滴など、医療的な処置が必要な方の入浴に関しては往診の看護師の都合により午前中に入って頂いているが、その他の方に関してはなるべく午後に入浴して頂いている。	看取り時期に入っている人も体調を見て2人介助で浴槽に浸かれる支援をしている。全員がシャワー浴ではなく重度の人は週2回、他の人は1日おきに入浴している。「大安」の日しか入らないと言う利用者に職員は「大安」特製カレンダーを見せて1日おきに入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床や入床時間を決めず、本人の意思を尊重している。日中も休みたい場合には自由に休んでもらうが、30分ぐらいを目安に声掛けしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の種類や量に変更があればその都度フロアノートに記入し全員把握できるよう努めている。また、申し送りの際には口頭でも連絡をして2重チェックをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日散歩されていた方は、入居後も毎日散歩して頂き、晩酌されていた方には引き続き晩酌をして頂けるよう配慮している。欲しいものがあれば一緒に買い物にも出かけている。		



静岡県(グループホーム今日香)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日散歩が日課だった方は、入居後も毎日散歩している。歩行困難になった方でも、車椅子で一緒に出掛けることが出来るよう配慮している。	真夏にクーラーの中で長袖で過ごすより、夏らしい格好をして、軒下にプールを置き足をに入れて外気浴をしながら暑さを感じてもらおう支援をしている。外出レクリエーションでは初詣や花見などドライブで出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在2名が自分でお金を所持している。認知症なので、破ってしまったり捨ててしまったりすることがあるかもしれないことをご家族に伝え、了承を得ている。今の所紛失したことはない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在1名が携帯を所持しており、本人の好きな時に連絡をとっている。年賀状やハガキが届くこともあるが、認知症のため、返信は出来ていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温は常に一定の温度で保つように気をつけている。フロアの飾りなどは、季節を感じて頂けるよう毎月変えている。	平屋作りで廊下は長く手すりを使って脚の運動ができる。季節を感じる飾りは家族や利用者の意向を把握し居心地良く過ごせるよう配慮している。和室のスペースにベッドや布団を敷いて、重度になってきている人が皆の傍で生活音を感じながら安全に過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	平屋で、フロアや居室の行き来が自由なので、他フロアの入居者が来て一緒に話している事も多い。また、間にある事務所の椅子に座って話をしながら過ごす事もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅で使用していた馴染みの物をなるべく多く持って来て頂くようお願いしており、本人が不安な気分になった時には、居室に戻ることで安心感を得られるよう配慮している。	各居室の表札の下にトリアージを色別のシールで標示し、玄関に見取り図を掲示して手伝いに来た人が解るようにしている。テレビや家具等持ち込んだり、花の好きな人の部屋には生花や造花などが置かれている。ベッドで過ごす事が多くなっている人には天井や壁に折り紙細工等を飾ってある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行器やシルバーカーを使用する方は、自分の動きたい時に動けるよう食席の隣に置き、いつでも安全に移動出来るよう配慮している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276600422		
法人名	医療法人社団 聖パウロ会		
事業所名	グループホーム今日香		
所在地	静岡県磐田市上野部1519-5		
自己評価作成日	平成 31年 1月 4日	評価結果市町村受理日	平成31年4月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [okensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action\\_kouhyou\\_pref\\_search](http://okensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_pref_search)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成 31年 1月 17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人なので、24h体制で対応させて頂くことが出来るため、医療依存度の高い方への対応もさせて頂いている。1日2回往診の看護師が来て体調管理をしてくれ、医師の往診は毎週月曜日と不定期で水曜日、金曜日に来てくれている。  
また、建物が平屋なので入居者様同士のフロア間の交流もスムーズに行えており、施設内での行事の際にも医療依存度の高い方の参加もしやすい環境となっている。  
田舎なので、あまり昔と景色も変わらず車通りも少ないため、散歩するにはとても良い環境だと思う。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時に必ず理念の説明を行っている。 また、年に1回は職員会議で確認を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、草刈りや防災訓練、地区の祭りなどに参加させて頂いている。 また、ボランティアの方に来て頂き演奏会などを行う際には、地域の方にも声をかけさせて頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	包括主催の家族会に参加させて頂き、自宅介護をされている方に自分達の知識や技術を提供させて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	災害についての意見が多いが、話し合った内容を職員会議で全職員に報告し、実践に繋げている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業者連絡会議に参加している。 また、2か月に1回の運営推進会議にも参加して頂いており、その都度話し合いが出来ている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法改正があったため、今年から年に2回勉強会を行っている。 また、職員入社時には個人的に説明し把握してもらえよう努めている。		

静岡県(グループホーム今日香)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同じ月で年に2回勉強会を行っている。 また、入社時にも身体拘束同様、個人的に説明し把握してもらえるよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1回は勉強会を行い、この制度に関する説明を行っている。現在はこの制度を利用している方はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申し込みに来て頂いた時に話し合いをさせて頂き、契約締結時にも直接会って話し合いを行っている。改定時には文章で説明し、面会時には直接説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者やご家族からご意見を頂いた場合には、申し送りや職員会議などを利用して全職員に把握してもらえるよう工夫している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に話しやすい環境づくりを心掛けている。 職員会議では、係や委員会の担当者それぞれが全職員に伝えることで意見を出しやすいよう工夫している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	個々の生活環境を考え、希望によっては休みを固定にしたり、曜日で早く帰れるよう配慮したりと働きやすい職場づくりを工夫している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内の勉強会は毎月2回ずつ行っている。 法人の勉強会は年に数回行っている。 外部研修に関しては、希望者がいれば参加してもらっている。		

静岡県(グループホーム今日香)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	磐田市やGH協会、自分の住んでる地域限定の事業者連絡会議などで行われる勉強会に参加し、新しい知識や技術を身につけていけるよう努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来るだけ本人が安心できる空間でお話を聞けるよう工夫している。そこで得た情報は会議などで全職員に把握してもらい安心して過ごして頂ける空間づくりを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安や要望に関しては、今後施設でどのように対応していくのかを、具体例も挙げながら出来るだけ分かりやすく説明し、少しでも安心して頂けるよう工夫している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービス利用が困難で、ここに来られる方ばかりなので、他のサービス利用は考えていないご家族ばかりである。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物や掃除など、自分で出来ることはなるべく自分でやって頂くよう心掛けている。その際、なるべく1人にならないよう工夫している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	2か月に1回、写真付きのと、文章だけの2種類のお手紙を送らせて頂いている。面会時には職員から入居者さんに声をかけ、スムーズに話が出来ようお手伝いをさせて頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の方が多くなってきたので、入居者さん同士も知り合いということが増えてきている。そのため、面会者もご家族だけではなく、知り合いにも挨拶をして帰られることが多くなってきている。		

静岡県(グループホーム今日香)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来る限りフロアにて過ごして頂けるよう心掛けています。入居者同士の会話が難しい場合には、職員が間に入って話すように気をつけています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取りまでさせて頂いている為、ご本人には会うことはほとんどないが、ご家族とはお会いする機会があるため、お話をさせて頂く機会がある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人より希望がある場合には出来る限り意向に沿えるよう努めている。困難な場合でも、表情や仕草などから思いをくみ取るよう心掛けています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族に伺った情報を全職員が把握できるよう、入居前情報を作成している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	フロアノートを作成し、変化があった場合には必ず記入している。そして全職員が把握できるよう申し送りで伝え、サイン名簿にチェックしてもらうようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎朝1人ずつプランの評価を行っている。変化がある場合にはその都度ご家族や多職種と相談し、そこで出た意見などをプランに反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録以外にフロアノートを作成し、細かい情報を記入している。また、介護計画書の内容に変更がありそうな場合には、メモを入れて全員が把握できるよう工夫している。		

静岡県(グループホーム今日香)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出や外泊だけでなく、施設に来てくれる美容院ではなく、馴染みの美容室へ行きたいと訴えある場合にはそこへ一緒に行くようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	医療依存度の高い方が多く、外出頻度も少ないため、ボランティアの方に来て頂き、施設内で楽しめるイベントを企画している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療法人のため、内科に関しては入居前にご家族と相談し、主治医は移している。その他の病院に関してはご家族にも協力して頂きながら今まで通っていた病院へ通院されている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療法人で24h体制なので、入居者の体調に変化がある場合、連絡するとすぐ対応してくれる。また、1日2回午前と午後に来てくれる為、相談しやすい環境が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時の情報交換に関しては母体に対応してくれているため、スムーズに行えている。入院中や退院時には病院にてご家族とムンテラをしっかり行い、安心して施設に戻って頂けるよう準備している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況に変化があった場合には、施設からだけでなく医師からも説明を行い、今後の方針を一緒に決めていくよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年事故対策についての勉強会や、急変時の対応についての説明を行い、全職員に把握してもらえるよう努めている。		

静岡県(グループホーム今日香)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に1回、勉強会を行っている。 また、全ての災害に対しての訓練を年に数回行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	地域がら、丁寧な言葉遣いではなく方言で話すことが多いが、今まで生活していた環境によって、丁寧な言葉遣いをされている方もいるため、その方に合った言葉遣いを心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	TVや広告など目に見えるもの話題から興味を持っていただき、そこから自然に本人の思いを伝えてもらえるよう工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の予定は全く決めず、それぞれ思い思いに過ごして頂いている。入浴時間や散歩など、声掛けした時間に行って頂くだけではなく、本人の希望時間に対応することもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服や美容室など、本人が希望する馴染みの場所へ買い物に行くことができるよう工夫している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人の給食センターから届くため、硬さや味付けについて希望があればその都度伝えて調整して頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表にて日々の摂取量を把握し、気になるようであれば往診へ報告し対応してもらっている。食事だけでは栄養が足りない場合にはおやつ時にエンシュアゼリーなどを摂取してもらうよう工夫している。		



静岡県(グループホーム今日香)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前後に行っている方と、起床入床時の2回行っている方がいる。 月に2回訪問歯科が来てくれている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて日々の状態を把握し、排泄リズムをつかむことで、自立に向けてのケアを心掛けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	施設の廊下や外を散歩しながら運動している。食べ物に関しては、食物繊維の多いものを食べて頂いたり、おやつにヨーグルトなどの乳酸菌も摂ってもらえるよう工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	点滴など、医療的な処置が必要な方の入浴に関しては往診の看護師の都合により午前中に入ってもらっているが、その他の方に関してはなるべく午後に入浴して頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床や入床時間を決めず、本人の意思を尊重している。日中も休みたい場合には自由に休んで頂けるが、30分ぐらいを目安に声掛けしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の種類や量に変更があればその都度フロアノートに記入し全員把握できるように努めている。また、申し送りの際には口頭でも連絡をして2重チェックをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日散歩されていた方は、入居後も毎日散歩して頂き、晩酌されていた方には引き続き晩酌をして頂けるよう配慮している。欲しいものがあれば一緒に買い物にも出かけている。		

静岡県(グループホーム今日香)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	毎日散歩が日課だった方は、入居後も毎日散歩している。歩行困難になった方でも、車椅子と一緒に出掛けることが出来るよう配慮している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在2名が自分でお金を所持している。認知症なので、破ってしまったり捨ててしまったりすることがあるかもしれないことをご家族に伝え、了承を得ている。今の所紛失したことはない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在1名が携帯を所持しており、本人の好きな時に連絡をとっている。年賀状やハガキが届くこともあるが、認知症のため、返信は出来ていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温は常に一定の温度で保つように気をつけている。フロアの飾りなどは、季節を感じて頂けるよう毎月変えている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	平屋で、フロアや居室の行き来が自由なので、他フロアの入居者が来て一緒に話している事も多い。また、間にある事務所の椅子に座って話をしながら過ごす事もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅で使用していた馴染みの物なるべく多く持って来て頂くようお願いしており、本人が不安な気分になった時には、居室に戻ることで安心感を得られるよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行器やシルバーカーを使用する方は、自分の動きたい時に動けるよう食席の隣に置き、いつでも安全に移動出来るよう配慮している。		

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	3	運営推進会議の議事録はご家族に送っているが、内容についてのご意見や感想を頂く工夫がされていない。	ご家族からご意見や感想を頂ける機会を増やしたい。	運営推進会議の議事録と一緒にアンケートやメモなどを送らせて頂き、ご意見や感想を頂けるよう工夫していきたい。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。